

名家連ニュース

平成30年11月2日(金)
発行：特定非営利活動法人
名古屋市精神障害者家族会連合会
会長 堀田 明
TEL/FAX (052) 846-5576 NO. 559号

障害者手帳、カード型可能 厚労省が省令改正へ

厚生労働省は25日までに、障害のある人が持つ障害者手帳について、持ち運びしやすいカード型での交付を可能とすることを決めた。社会保障審議会の障害者部会で提案し、了承された。今後詳細な制度設計を進め、早期に省令を改正する。

身体障害者が持つ「身体障害者手帳」と精神障害者が持つ「精神障害者保健福祉手帳」はどちらも紙製で、情報を書き加える仕様になっている。大きくて持ち運びが不便なため、カード化を求める声が上がっていた。



新しいカードは運転免許証などと同じ大きさで、耐久性が高いプラスチック製を想定。氏名や住所、障害の内容などを記載する。実際にカード型で発行するかどうかは自治体の判断に委ねる。

障害者手帳は本人の申請により都道府県と政令指定都市、中核市が発行する。2016年度末時点で身体障害者約515万人、精神障害者約92万人が交付を受けた。知的障害者が持つ「療育手帳」は現行制度でもカード型の発行が可能で一部の自治体が導入している。(2018年10月26日 日経新聞)

精神疾患の記述、高校保健体育の教科書に40年ぶり復活



精神疾患についての記述がある、1950～70年代の高校保健体育の教科書

2022年度から使われる高校の保健体育の教科書に、精神疾患の記述が40年ぶりに復活する。家族会や専門家らは「偏見の解消や早期発見につながる」と評価。(中略) 東邦大医学部の水野雅文教授(社会精神医学)によると、躁鬱(そううつ)病や統合失調症などは思春期で発症する人が多い。生涯に精神疾患にかかる人は6～7人に1人おり、75%は25歳未満で発症するとの報告もある。「例えば統合失調症は発症して5年間の治療がその後を決める。早く気づき、専門機関を受診することが大事で、自分自身や周囲の健康のためにも、精神疾患

の知識は欠かせない」と話す。(中略) 全国精神保健福祉会連合会(東京)の小幡恭弘事務局長は「発症の第1ピークは14歳。中学生への教育も求めたい」と話す。(2018年10月29日 朝日新聞)

名古屋市との懇談会及び代表者会議のご案内



【曜日】平成30年11月17日(土) 【場所】 家族相談室



《名古屋市懇談会》13時～15時 ①保健センター福祉業務の区役所福祉課へ移管 ②精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築 ③その他 などについて忌憚のない意見交換を行います。

《家族会代表者会議》15時～16時 ①成年後見アンケート調査用紙回収 ②各種行事の感想意見交換 ②各家族会の近況・交流 ③今後の日程 ④その他 など情報及び課題の共有を図っていきまので万障繰り合わせのうえご参加下さい。追伸：季節の変わり目、ご自愛下さい。名家連会長 堀田 明